

書評

史野根生 編集

膝のスポーツ傷害

越智 光夫 (広島大学整形外科)

スポーツに起因する膝靭帯損傷の病態と治療に関して、過去10年以上にわたり世界に発信し続けている国際的 knee surgeon のひとり、史野根生先生の編集による「膝のスポーツ傷害」が刊行された。誰にも負けない膝に対する情熱を感じさせる先生の本とすれば、表紙の薄い緑色はいささか地味すぎないかと思いつつ、本を手にとった。がしかし、抑え気味なのは表紙だけで、内容はやはり熱かった。

史野先生の前書きによると、「本書は、1章では臨床に関連の深い解剖学・生体力学的知識を簡潔に網羅することに努めた。2章では、近年のトピックである靭帯損傷膝に対するアプローチの仕方から具体的な治療法までを詳述した。3章では、その機能的な重要性が認識されてきた半月をいかに修復し、その機能を温存するかを中心に述べていただいた。4章では、膝蓋大腿関節の不適合の病態およびその解析法を中心に具体的な治療法までが述べられている。5章では、重篤な症状を呈する骨軟骨障害への取り組み方が具体的に記されている。6章では、ランニングや水泳による過労性障害の病態や治療法が詳述されている。7章では、加齢と膝の障害に関するユニークな考察を述べていただいた。8章では、慢性の障害や急性外傷に対する保存的アプローチを具体的に述べていただくとともに、最も一般的に行われている関節鏡視下小手術や前十字靭帯再建術後のリハビリテーションの実際にも詳細に述べていただいた。9章では、予防の問題にも触れた。」と書かれている。

各章を担当された先生方も多士済々で、いずれの

先生方もそれぞれの分野の進歩に大きく貢献された先生ばかりである。執筆された先生方が今まで発表されてきた original な論文とともに、現在、膝関節スポーツ傷害に関して知っているべき国際的論文はほぼ網羅され、自分の主張にあまりに固執することなく、全体のバランスを考え、よく記載されている。図や表も適切に配置されて、読みやすく、分かりやすいよう配慮されているため、通読も数時間で可能である。

先生と仲の良い Dr. John A. Feagin, Jr. の編集した「The Crucial Ligaments (Churchill-Livingstone 社)」の教科書にならない、case study が2章から5章の最後の部分に記載されている。ここには膝に傷害を持つ患者さんをどのように治療するのが良いのか具体的に述べられているため、きわめて実践的で有用である。

この本を一冊読めば、世界の膝の最前線が見えてくる。広島大学の膝グループも、13年前より抄読会を始め、関連病院から集まってくる20名以上の膝の仲間と抄読会は途切れることなく続いている。仲間に新たに加わった若い整形外科医や理学療法士はもちろんのこと、すでに膝に取り組んできた中堅医師にも、知識をもう一度整理し直すために、この本を読むことを強く薦めている。このことは日本中の膝関節傷害に携わっている先生方においてもあてはまるものと確信している。

(B5 頁200 9,785円(税込) 1995 医学書院刊)